2022年（令和４年）4月12日（火曜日）

中日新聞

古川の渡辺酒造店 **酒造り工程をデジタル化**

働き方改革で夜勤廃止

担当の男性社員 初の育休取得

飛騨市古川町の老舗酒蔵「渡辺酒造店」が、酒造りの作業工程にデジタル化を取り入れて働き方改革を進め、酒造りの担当者の夜勤廃止を実現させた。一月に男性従業員の育休取得率１００％実現を宣言。三月には酒造り担当の男性社員が、同社で初めて育休を取得した。（吉本章紀）

酒造りでは、こうじともろみの発酵温度管理のために、酒造り期間には夜勤労働が発生する。渡辺酒造店では例年、九月から翌年六月までが酒造り期間となり、酒造りを担当する十三人のうち八人が、夜勤労働に従事していたという。

同社では有給を活用した長期連休取得の制度を設けているが、酒造りの担当者に関しては、夜勤労働が長期連休取得のネックとなっていた。そこで、昨年十一月にこうじともろみの温度管理を自動化するシステムなどを導入。タンクに温度管理の機能が備わり、遠隔で温度のチェックもできるようになったことから、夜勤労働の廃止に踏み切ったという。

同社で初の育休取得者となったのは、同市古川町の古田裕一郎さん（三四）。古田さんには三月二十二日に三女が生まれ、同日から四月十一日までの二十一日間、育休を取得。小学二年の長女、年長園児次女と一緒に自宅で過ごした。

「妻が出産してから五日間入院して、子どもの送迎など、その日から家のことをやる必要が出てきた」と古田さん。「当初は一週間ぐらいと思っていたが、上司から『仕事の方は大丈夫だ』と送り出してもらえたのが大きかった」と職場の理解に感謝する。

同社の渡辺久憲社長は「若い人の採用は難しく、会社は選ばれる側になっている」と指摘。「伝統産業だからといって、長時間労働や夜勤などの状況に甘んじているのではなく、若い人が生き生き働ける職場づくりを、できるところから頑張っていきたい」と話した。

育休を取得し、自宅で子どもたちと過ごした古田さん㊥＝飛騨市古川町で